

### 陸上クラブ紹介 第3回

## 長野工業高等専門学校 陸上競技部 Nagano National College of Technology

長野高専陸上部は昭和39年(学校創立翌年)に創部され、以来文武両道をモットーに活動しています。

全国レベルの競技実績は、近藤広幸君が昭和61年山梨国体少年走高跳で優勝、近年では長距離の小林祐也君(岩手大学)、平成15年度北信越学生選手権で大学生を抑え10000mで優勝した山岸健司君(新潟大学へ進学)などが挙げられます。全国高専大会での優勝者は創部依頼8人(のべ13回)になりますが、ここ5年間では3人(のべ6回)が優勝するなど、お蔭様で力を伸ばす選手が育っています。しかしながら、平成6年度に出場を認めて頂いた高校大会関係では、全国は遠く、出場・入賞は大きな目標・課題と言えます。

次に、本校の工学的な特長を生かした取り組みを紹介致します。120m3レーン全天候走路、3次元動作分析装置、ハイスピードカメラ、手作りの投擲サークル、傾斜走路、そして今年度完成した10m毎計時できるスプリント自動計時装置など、強くなるための施設や器具が完備しています。陸上競技を工学的、スポーツバイオメカニクスの観点から捉えてみたい方はお気軽に声をかけて下さい。全天候走路での50、100mのタイムトライアル等もお引き受け致します。

平成16年度は完成したスプリント自動計時装置を利用して、10m区間タイムから速度曲線を作成し、普及強化に役立つ企画を予定しています。この装置のソフトはOBで高専4次から長野陸協の一員として写真判定、情報処理係等で活躍中のご存知、渡辺博士が中心になり、開発したものです。図1のような速度曲線がフィニッシュ後直ちに印刷されます。

▼高専皇居駅伝 2004.1.10 皇居 (男子4優勝、女子連勝)



### 編集後記

希望に満ちた2004年を迎え、会員の皆様にはご健勝のこととお慶び申し上げます。春を迎えると共に今年も各種の大会を消化していかねばなりません。今年オリンピックイヤーの年。長野市からオリンピック選手の出ることを願っている長野市長さんの心の中は、長野市内を走る長野マラソン、S・O冬季世界大会、と長野市を善光寺と共に名を上げる絶好の機会でもあり、またスポーツ宣言都市、長野市を更にアピールしていける年にしたいのではないのでしょうか。(早川)

また、3年生にはB級審判員を積極的に取得させ、4・5年生で各種大会の審判員に任に当たれるよう指導しております。先輩の審判員の皆様には、顧問共々ご指導のほどお願い申し上げます。 文責 内山：295-7044(直通)

<支援していただいているコーチ>  
深井郁夫技官(長野高専技術室) 1500m前県記録保持者  
佐々木茂雄先生 本校非常勤講師 行政書士 ハンマー投記録保持者  
山田栄一郎先生(マスターズご活躍中)  
澤口通洋先生(歯科医師 投擲)  
<顧問> 4人と公認審判員  
大澤幸造(J科)工学博士・渡辺誠一(E科)工学博士本校OB  
藤沢義範(J科)工学博士・内山了治(一般科)陸連B級コーチ

▼表1.長野高専陸上部の概略(創部S39)

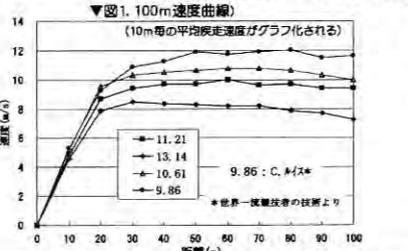
学年	HR	登録	参加大会
1・2	混合学級	高体連	I H関係 関東信越高専 全国高専 陸協各種
3			
4・5	5学科別	学連	I C関係
6・7	専攻科2コース	I C登録可能	

■ 器械M・電気E・電子制御S・電子情報J・環境都市C  
■ 1~5年 学生数:全校1000人(女子168人 留学生4人)  
■ 陸上競技部員数:男子27人 女子9人 合計36人

▼表2.関東信越地区大会の年次成績

H年度	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
関東信	合計	27	52	82	110	128	148	141	160	134	149
越地区	順位	6	4	2	1	1	1	1	1	1	1
全国	合計	0	5	4	16	25	36	29	42	29	44
	順位	-	-	-	14	5	4	6	3	6	3

※高専数 関東信越地区:10高専 全国:62高専



SHINANO MATE  
ATHLETIC UNIFORM

株式会社 **しなのメイト**

〒389-0606 埴科郡坂城町大字上五明992-2  
PHONE (0268) 81-1336  
F A X (0268) 81-1337



題字の「動き」は長野市陸協三代目会長 山浦保氏の書で、山浦会長の頃、市陸協会報紙として何号か発行されていました。

## 長野市陸協会報 第4号 平成16年3月8日

発行所 長野市陸上競技協会  
発行人 浦野義忠  
編集人 早川千吉郎

### 一年を振り返って

長野市陸協の重責をお引き受けして、一年間が過ぎようとしています。果たして会員の皆様方のご期待に添えるような動きができたか、不安な面も多ありますが、皆様方のご協力をいただき、気持ち良く仕事ができ、感謝の気持ちで一杯です。

就任前に、浦野理事長と長野市陸協を発展して行くためにはどんな事からおこなって行けば良いかということをお話したところ、即座に「長野市の選手たちを強くする事だ」と私の気持ちと一致しました。タイミング良く驚沢市長の考えも、長野市から全国へ羽ばたく選手を出そうと、選手育成の為に様々な新しい事業を手掛けてくれました。

市教委、市体協のバックアップもあり、選手・監督それを支えるサポートの皆様方の努力がみのり、県縦断駅伝も優勝することができました。勝つことはやは

長野市陸上競技協会 会長 伊藤利一

り私達に感動を与えてくれます。私達は、未来に羽ばたく若い選手達の為に、安心して練習できる環境や資金面での応援体制を確立していくことが役目だと思っています。

また、競技会の審判はボランティア世界であり、毎回毎回出席いただく会員の皆様には感謝しています。ボランティアの仕事ですので、一日を気持ち良く審判をやり遂げ、選手達に感謝され、会員同志がお互いに融和をはかれるような体制を作るのが、私の任務ではないかと思ひます。そういう点では、まだまだ力不足の感が致します。

二年目を迎える今年は、昨年の反省をもとに長野市陸協発展の為に骨身を惜しまず、頑張りたいと思っています。

### 感謝とともに喜びをかみしめて

広徳中学校 山田良一

1月18日、広島平和公園の人混みをかき分け、ゴール地点へ私が着いたとき、西沢監督が宙に舞っていた。「優勝したんだ！」という熱い思いが全身にこみ上げてきた。

今回、広島入りし、ホテルに着くなり、「長野県チームですね。」中国新聞の記者が西沢監督に近づいてきて一言。私が駅伝チームのコーチになって早7年。こんな出迎は初めてであった。そして、移動する場所場所でそんな出迎えがあった。それは「チーム長野」が高い評価を受け、注目されているということの意味していた。スタッフにしても選手にしてもそれなりに大きなプレッシャーが肩のしかなかったが、それを乗り越え、目標にしていた頂点にたった瞬間であった。

駅伝は、自分だけのために走るレースとは違い、何が起きるかわからない。どんな試合でも描いたレース運びをすることは難しいことだ。今回のチームは、どんな展開にも対応できるようにと練習を実践し、個人

の戦績にもそれが現れていた。また、全選手が一同に会して刺激あいながら7回行った合宿で、選手たちの中に「自分はどの区間を走っても絶対やれる・いける」状況と心意気が生まれていたことが勝因につながったのだと思う。

実際にレースは良い流れで始まったもののトップでつなげなかった永田、太田の苦しい走り、上野の腹痛(腰痛であった)と予想外の事態が続出し、6区高野がアンカー帯刃にタスキを渡した時点でライバル兵庫に25秒差という際どい差の中、ハラハラ、ドキドキのレースで勝利という(長野県以外の)見る方には最高のレースになったようですが・・・。

『成せば成る』この喜びをかみしめながら、素晴らしい結果を残すことができたことは支えてくださった陸協関係者の方々はもちろんのこと、競技場の皆さん、そして県民の皆様のおかげと感謝を申し上げ、文を閉じます。

# 新企画 ホープさん

長野工業高校  
宮沢洋平

僕は、長野工業高校2年生の宮沢洋平です。種目は、短距離を主にやっています。去年はインターハイに200mで出場して、秋の国体では少年男子Aの400mに出場させていただき、入賞することができました。そんな去年を振り返ってみたいと思います。

まず、始めに1年の秋に立てた来年の目標を達成できるように1年から2年にかけての冬期練習では、それなりに走り込みました。そして、1年の秋から比べて体力的な面は大分パワーアップしました。が、夏季シーズンは思うような結果が残せませんでした。秋季シーズンに向け、何が悪かったのかと考えてみたところ、冬期練習をおこない『心・技・体』で言うと『体』は鍛えられたのですが、『心』と『技』が足りずアンバランスだった為、思うように走れなかったのだと思いました。具体的に言うと、冬期練習中はただガムシヤラに走っていただけで、自分の走りについてあまり考えていま

せんでした。その結果、練習での走りが本番での走りにつながらなかったのだと思います。また、自分の体へのケアが足りず、春先はケガをしてダメでした。他にも、僕の心の中にスキがあったのではないかと思います。

しかし、インターハイが終わってから県の富士見合宿に呼んでいただき、そこでいろいろ大事なことを再認識させていただき、有意義な合宿を過ごすことができました。そして、先生方や先輩、友達などいろいろなおかげで、静岡国体では4位に入賞することができました。ありがとうございました。

近況を報告しますと、今僕はケガをしてうまく練習をすることができません。しかし、工夫してできることをやっていきたいと思い、取り組んでいます。来年度はもう高校最後の学年です。自分の目標であるインターハイ入賞ができるようにがんばっていきます。

長野市陸協駅伝部 徳武雄次郎

## 県縦断駅伝最優秀選手に輝く

この度は、名誉ある賞をいただきまして、関係者の皆さまに深く感謝している次第です。本当にありがとうございました。また、このような原稿の依頼を受け、躊躇してしまいましたが、書き修めさせていただきます。

私が走り始めたのは36歳です。「健康のために」と走り始め、各地で行われるマラソン大会などに参加するようになりました。すると、自然と自分に目標ができて始め、ただ走るだけでは済まなくなってきました。そんな頃、長野市チームのコーチ・キャプテンである高野さんとの出会いがありました。走るということは同じでも、経験や実績は全く違う方に「一緒に走りませんか」と誘っていただき、「自分のような者が練習に参加していいものか」と随分迷いました。まさに、この出会いをきっかけに、長野市チームの皆さんとの出会いが私を大きく変えてくれるものとなりました。それが40歳の年でした。

初めての練習に参加した日は、ただ疲れて苦しかったという思いしか残らず、「これを続けたい自分体が壊れるのか」と不安になったこともありました。

しかし、コーチが作成する練習メニューをこなし、自分の記録が伸びていくのを感じたときに大きな自信となり、更に意欲が湧いてきました。年齢が年齢だからといって特別ではなく、仲間の皆さんに受け入れられ、皆と同じに指導を受け、教えていただく中で、スピードはなくても常に安定した走りができるように育てていただいていたように思います。52回大会では、2位で襷を受けた時、前方に選手は見えませんでした。何とか逆転してチームに貢献したい。必ず勝てる」と余裕がない自分を励まし、優勝を確信して走りました。そして、中間点5km手前で1位の選手の背中が見えた時、また、追い越した時の感激は身が震えるほどでした。沿道から聞こえる声援。1位でゴールできたことは自分一人ではなく、陰に日なたに支えてくださるチームの仲間は勿論のこと、多くの方々のおかげと幸せに思いました。これからも、今の自分に満足することなく、常に目標を高く持って走り続けたいと思います。

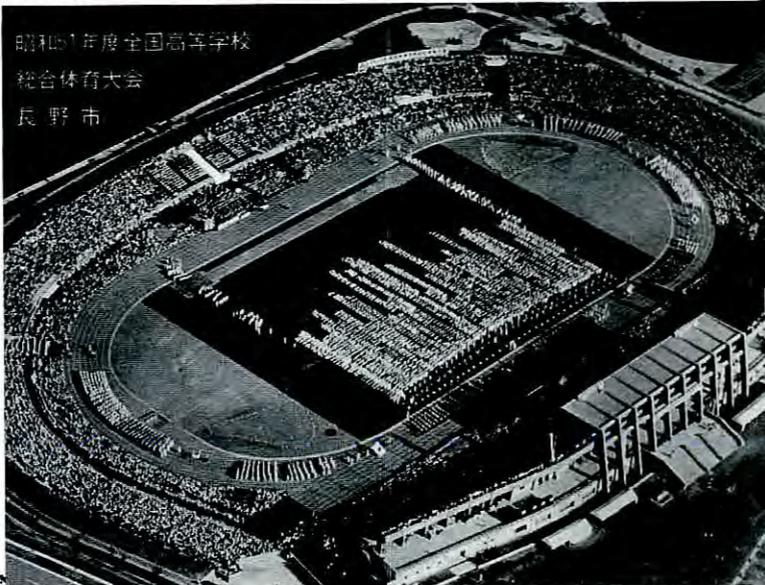
最後になりましたが、走る環境を整えて下さる陸協の皆さまに感謝すると共に、今後もご指導を賜りますよう、よろしくお願ひいたします。

# 思い出の写真シリーズ ◆第2回◆

## 長野市営陸上競技場開催の大会思い出 依田良春

昭和49年9月に着工した長野市営陸上競技場は、昭和51年4月20日に完成した。この陸上競技場で開催された大会は、昭和51年の全国高等学校総合体育大会を皮切りに、昭和52年関東甲信越大学対校陸上競技大会、昭和55年全国高専陸上競技大会、昭和56年日本・中国・カナダ対抗ジュニア陸上競技大会、昭和60年国際陸上競技長野市大会（7カ国参加）、昭和63年88' ソウルオリンピック・タイムトライアル（11カ国参加）、平成4年日・米ジュニア陸上競技長野市大会、そして平成6年長野県・河北省親善陸上競技大会など素晴らしい大会が続いた。もちろんこの間に、北信越高校・関東信越高専大会・北信越学生大会・JR東日本陸上競技大会・県内の各種大会が、長野市陸協を中心に開催され、選手育成発展に大いに貢献してきた。長野オリンピック記念長野マラソンも2004年

(平成16年)からこの陸上競技場スタートになる。長野市陸協会員の皆様、健康で益々のご活躍を祈念いたします。



昭和51年度全国高等学校総合体育大会 長野市

## 藤本勝彦先生秩父宮章受章祝賀会 盛大に行われる

藤本先生の秩父宮章祝賀会が、12月7日、ホテル犀北館において盛大に行われました。

当日は、日本陸連前専務理事佐々木秀幸様を始め、多くの来賓及び陸協会員160余名の方々のご出席をいただきました。

現在も県陸協審判委員長の大役をやられており、先生のご慰労と共に、受章の喜びを共に分かち合いました。

おめでとうございます。



祝 藤本勝彦先生秩父宮章受章祝賀会

## サブトラックに時計塔立つ

サブトラックには、以前、時計塔がありました。破損されてからいつのまにか時計は消えて、どのくらい歳月が流れたのでしょうか。

選手係の役員等の要望もあり、市の方へお願いしてまいりましたが、ようやく実現の運びとなりました。

この時計は直径70cmで、両方から



見られる電波時計で、ほとんど狂いのない時計です。選手の皆さんは、この時計を見ながらウォーミングアップをして、時間に遅れないよう、余裕を持って招集所へ集まってください。

市体育課関係の皆様方、ありがとうございました。